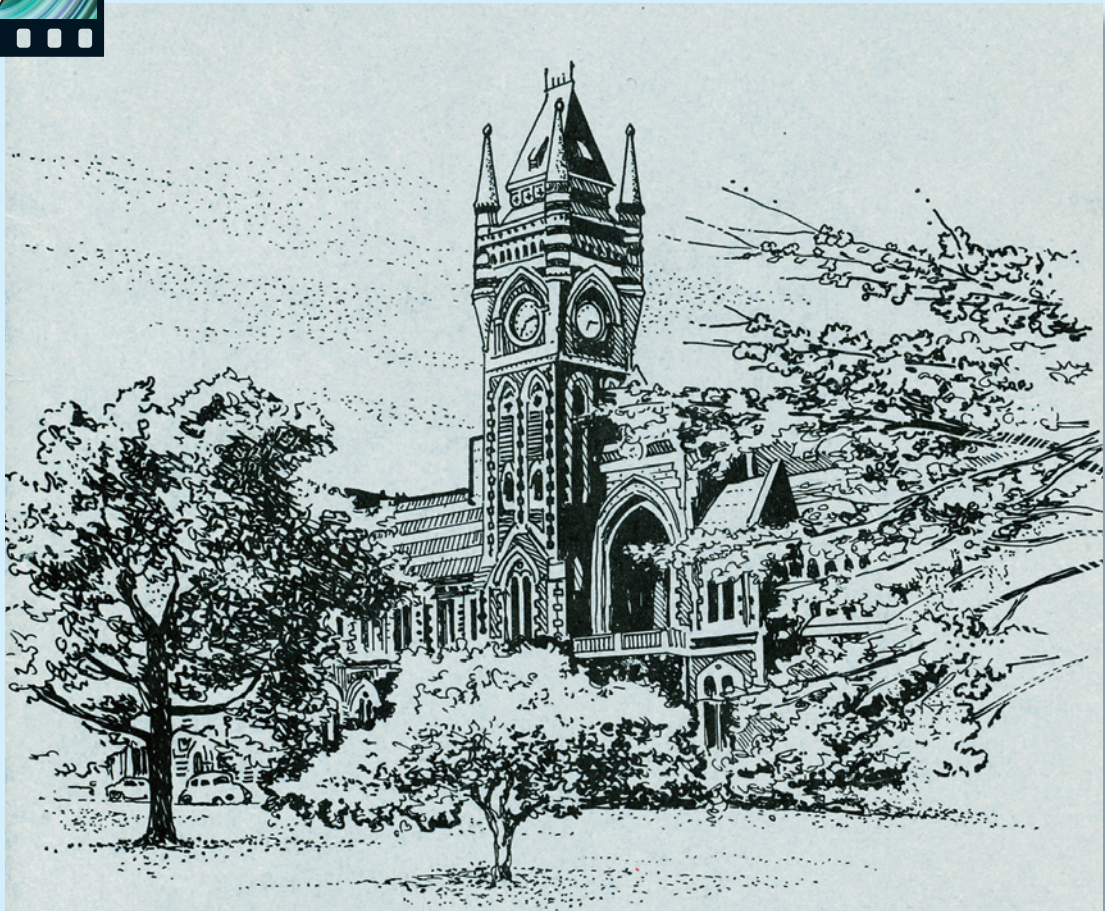


NZのオタゴ大学へ飛ぶ



1997年7月。4日にオーストラリアのアデレード大学との姉妹校調印を終えて、私と小倉英夫教授は、6日、隣国ニュージーランドへ飛んだ。

NZ南島にあるダニーデンは、小さな古都である。ゆるやかな美しい丘陵を走ると、静穏な道路を羊の列が横切る。途切れないざわめきに、10分ほど停車させられた。人より羊のほうが多い、という噂どおりの島だった。

ダニーデンには、NZ最古のオタゴ大学がある。10学部の一つが、本学と同じ1907年に創設されたNZ唯一の歯学部である。私たちは、歯学部長のDr. P.B.インネスに昼食に招かれた。彼は、たいへんシャイな紳士だ。木造2階のテラスから、凸凹のアスファルト通りに並ぶ野趣あふれる街並みを眺める。向かいには、タトゥ(入墨)屋がバーバーショップのように店を張っていた。

翌7日の午後、大学本館の学長室において、フォ

ガルバーク学長と姉妹校の調印をした。夕刻、インネス夫婦主催の晩餐会が催された。和気あいあいのうちに食前のワインを飲む。私は(コップ半分のビールで酔うので)失礼があつてはと、ジュースを注文した。すると、ご夫人方が「あなた、ジュースなの?」と呆れて笑い目になった。

「モンゴロイドの40%は、下戸なんですよ」と、私は向きになっていた。ノンアルコールの人種がいるのかと、ご夫人方は首をかしげた。

滞在中、小倉教授の友人Dr. ジェームス・フッド宅にホームステイした。彼は、英国のロビン・フッドの子孫である。左にダニーデン市街、右に太平洋を望む山間の別荘のような御宅だ。

夜半、ジムは私たちを屋外へと誘うと、おもむろに頭上を指した。私は唐突に、天空高くに輝く南十字星(サザンクロス)を仰ぎみた。

(写真は、オタゴ大学のスケッチ画)